



平成26年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年11月13日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社東急レクリエーション

コード番号 9631 URL <http://www.tokyu-rec.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 菅野 信三

問合せ先責任者 (役職名) 財務部長

(氏名) 堀江 真二郎

TEL 03-3462-8870

四半期報告書提出予定日 平成26年11月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年12月期第3四半期の連結業績(平成26年1月1日～平成26年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年12月期第3四半期	23,708	5.2	1,069	16.9	987	22.4	424	△34.4
25年12月期第3四半期	22,536	△0.9	915	32.2	806	33.4	646	31.8

(注) 包括利益 26年12月期第3四半期 417百万円 (△68.6%) 25年12月期第3四半期 1,330百万円 (165.1%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年12月期第3四半期	14.48	—
25年12月期第3四半期	22.04	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年12月期第3四半期	41,771	21,110	50.5
25年12月期	41,865	20,874	49.9

(参考) 自己資本 26年12月期第3四半期 21,110百万円 25年12月期 20,874百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年12月期	—	3.00	—	3.00	6.00
26年12月期	—	3.00	—	—	—
26年12月期(予想)	—	—	—	3.00	6.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年12月期の連結業績予想(平成26年1月1日～平成26年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	30,341	0.4	757	△28.0	619	△32.6	319	△45.0	10.88

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年12月期3Q	31,937,474 株	25年12月期	31,937,474 株
26年12月期3Q	2,607,032 株	25年12月期	2,598,118 株
26年12月期3Q	29,334,212 株	25年12月期3Q	29,351,633 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。なお、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、不確定な要素を含んでおります。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項については、【添付資料】3ページ「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府・日銀による各種政策の効果により、円安・株高傾向が継続するなか、企業収益に改善が見られ、個人消費も増加するなど景気は緩やかな回復基調となりました。

しかしながら、世界経済の下振れ懸念が依然として残り、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動の影響等もあり、景気の先行きは依然として不透明な状況で推移いたしました。

このような状況のなか、当社グループにおきましては、本年5月に経営ビジョン「エンターテイメント ライフをデザインする企業へ」を策定し、大幅な組織変更を行いました。主幹事業である映像事業を中心に、新設したライフ・デザイン事業、安定的収益基盤としての不動産事業の3事業を柱とした盤石な経営基盤を構築し、さらなる成長を実現するために積極的な営業活動を行ってまいりました。

この結果、売上高は23,708百万円（前年同期比5.2%増）、営業利益は1,069百万円（前年同期比16.9%増）、経常利益は987百万円（前年同期比22.4%増）となり、事業所閉鎖に伴う減損損失等を計上したことにより、四半期純利益は424百万円（前年同期比34.4%減）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

なお、第2四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同期比較については、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

① 映像事業

映画興行事業におきましては、上半期より大ヒットを記録している「アナと雪の女王」に続き、同じディズニー作品の「マレフィセント」、人気アニメ作品をCG・3D化した「STAND BY ME ドラえもん」、累計発行部数5,800万部の大ヒットコミックを実写化した「るろうに剣心 京都大火編」等が好評を博し、夏休み興行が順調に推移いたしました。

このような状況のなか、各シネマコンプレックスにおきましては、顧客ニーズに合わせた番組編成により客席稼働率を上げるとともに、コンセッションや劇場内でのシアタープロモーションによる付帯収入の獲得に努め、収益力向上をはかってまいりました。

映像関連事業といたしましては、9月に開催されました「第7回したまちコメディ映画祭 in 台東」におきまして、企画・運営業務を受託し、地域における映像文化の発信に努めてまいりました。

この結果、売上高は12,518百万円（前年同期比10.8%増）となり、営業利益は880百万円（前年同期比79.8%増）となりました。

② ライフ・デザイン事業

ボウリング事業及びフットサル事業におきましては、地域の特性に合わせたサービスを提供するとともに、利用者に訴求力のある各種大会・個人参加プログラムなどの企画・開催、スクールの充実などに取り組み、顧客満足度の向上に努めてまいりました。

また、新たな業態といたしまして、9月に24時間営業でマシンジムに特化したフィットネスジム「エニタイムフィットネスセンター駒込店」を当社直営の駒込駅前ビル（豊島区駒込）内に開業いたしました。

コンビニエンス事業におきましては、8月に18店舗目となる「ファミリーマート鶴ヶ峰二丁目店」（横浜市旭区）を開業するとともに、都心に展開する各店舗においても、プライベートブランド商品、季節型商材の積極的な販促並びに効率的な店舗運営に努め、収益の拡大をはかってまいりました。

飲食事業におきましては、「食彩健美 野の葡萄」「モスバーガー」の各店舗にて充実したメニューを揃えるとともに、きめ細やかなサービスや施設のクレンリネスの徹底などを心掛け、清潔で快適な店舗運営を推進してまいりました。

ランキン事業におきましては、「ランキンランキン自由が丘店」(目黒区自由が丘)など直営4店舗体制のもと、各店舗とも、ブランドの価値向上をはかりながら、話題の商品・情報を提供していくとともに、積極的な販促活動を行い、収益力の強化に努めてまいりました。

ホテル事業におきましては、都市部においては客室単価及び稼働率が上昇し、地方においても国内旅行回帰の傾向が若干見られるものの、業界全体では新規ホテルの出店が続き、依然として続く厳しい事業環境のもと、宿泊主体型の「ホテル東急ビズフォート広島」(広島市中区)並びに「熊本東急イン」(熊本市中央区)において、インターネットを利用した販促活動や満足度の高い宿泊パック等を提供するなど、顧客の獲得をはかり、客室単価及び稼働率維持に努めてまいりました。

この結果、新規事業所の開業などにより、売上高は5,088百万円(前年同期比3.7%増)となりましたが、各事業を取り巻く市場環境は依然として厳しく、営業損失は94百万円(前年同期は21百万円の営業損失)となりました。

③ 不動産事業

不動産事業におきましては、当社直営ビル及びマスターリースビルの双方において、テナント企業からの賃料見直しや退去等により、賃料は緩やかな下落を続け、引き続き厳しい事業環境となりました。

このような状況のなか、「池袋とうきゅうビル」(豊島区東池袋)、「宇田川町TRビル」(渋谷区宇田川町)をはじめとする当社直営ビル、「三郷中央駅前ビル」(埼玉県三郷市)などのマスターリースビルにおきましては、各ビルの特性に合わせた事業環境の整備に取り組み、安定収益の確保に努めてまいりました。

この結果、売上高は5,463百万円(前年同期比4.6%減)となり、営業利益は948百万円(前年同期比15.2%減)となりました。

④ その他

ビル管理事業におきましては、オフィスビルを中心にビルメンテナンス・安全管理における高いニーズに応えるとともに、クオリティーの高い技術力とサービスの提供に努めてまいりました。

この結果、売上高は638百万円(前年同期比6.5%増)となり、営業利益は72百万円(前年同期比20.9%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(総資産、負債、純資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ93百万円減少し、41,771百万円となりました。これは主に受取手形及び売掛金が188百万円、差入保証金が149百万円増加し、現金及び預金が147百万円、有形固定資産が254百万円減少したことによるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ329百万円減少し、20,661百万円となりました。これは主に流動負債その他(未払金)が295百万円増加し、買掛金が296百万円、借入金が315百万円減少したことによるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ236百万円増加し、21,110百万円となりました。これは主に利益剰余金が248百万円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年2月14日に公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

今後、何らかの変化がある場合には適切に開示してまいります。

2. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,052,027	904,747
受取手形及び売掛金	1,176,024	1,365,000
商品	200,675	185,221
貯蔵品	74,228	55,538
繰延税金資産	119,370	213,591
その他	3,317,695	3,287,168
貸倒引当金	△588	△467
流動資産合計	5,939,433	6,010,800
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	8,748,224	8,291,661
土地	9,908,024	9,908,024
その他(純額)	1,436,217	1,638,480
有形固定資産合計	20,092,466	19,838,166
無形固定資産		
投資その他の資産	1,103,814	1,072,888
投資その他の資産		
投資有価証券	3,864,905	3,866,731
差入保証金	9,195,451	9,345,384
繰延税金資産	76,088	98,612
その他	1,593,662	1,539,786
貸倒引当金	△726	△606
投資その他の資産合計	14,729,381	14,849,908
固定資産合計	35,925,661	35,760,964
資産合計	41,865,094	41,771,764

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,150,252	1,854,003
短期借入金	1,000,000	1,000,000
1年内返済予定の長期借入金	620,818	620,979
未払法人税等	221,603	185,831
引当金	82,100	112,749
その他	2,239,814	2,742,269
流動負債合計	6,314,589	6,515,832
固定負債		
長期借入金	1,054,745	738,991
再評価に係る繰延税金負債	2,581,782	2,581,782
退職給付引当金	291,044	314,613
資産除去債務	1,338,125	1,285,954
受入保証金	6,831,385	6,766,426
その他	2,579,067	2,457,566
固定負債合計	14,676,150	14,145,333
負債合計	20,990,740	20,661,166
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,028,813	7,028,813
資本剰余金	7,061,207	7,061,312
利益剰余金	2,991,242	3,239,953
自己株式	△1,394,922	△1,400,405
株主資本合計	15,686,340	15,929,674
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	779,144	772,054
土地再評価差額金	4,408,869	4,408,869
その他の包括利益累計額合計	5,188,013	5,180,924
純資産合計	20,874,354	21,110,598
負債純資産合計	41,865,094	41,771,764

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日)
売上高	22,536,470	23,708,299
売上原価	20,873,238	21,902,053
売上総利益	1,663,232	1,806,245
販売費及び一般管理費	748,190	736,770
営業利益	915,041	1,069,474
営業外収益		
受取利息	16,958	15,813
受取配当金	27,685	28,788
その他	7,081	5,966
営業外収益合計	51,725	50,568
営業外費用		
支払利息	133,154	122,951
持分法による投資損失	6,001	—
その他	20,985	9,404
営業外費用合計	160,141	132,356
経常利益	806,625	987,686
特別利益		
固定資産売却益	75,962	100
特別利益合計	75,962	100
特別損失		
固定資産売却損	114	2,976
固定資産除却損	2,171	2,567
減損損失	1,396	165,884
店舗閉鎖損失	—	21,754
和解金	—	160,000
特別損失合計	3,682	353,183
税金等調整前四半期純利益	878,904	634,603
法人税等	231,917	209,878
少数株主損益調整前四半期純利益	646,987	424,724
四半期純利益	646,987	424,724

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	646,987	424,724
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	683,839	△7,089
その他の包括利益合計	683,839	△7,089
四半期包括利益	1,330,826	417,635
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,330,826	417,635
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成25年1月1日 至 平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	映像事業	ライフ・ デザイン事業	不動産事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	11,302,560	4,908,076	5,726,189	21,936,826	599,644	22,536,470	—	22,536,470
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	34,045	34,045	664,850	698,895	△698,895	—
計	11,302,560	4,908,076	5,760,234	21,970,871	1,264,494	23,235,366	△698,895	22,536,470
セグメント利益又は 損失(△)	489,613	△21,234	1,119,004	1,587,383	59,906	1,647,290	△732,248	915,041

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ビル管理事業、アミューズメント事業を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△732,248千円には、セグメント間取引消去△349千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△731,898千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の一般管理部門に係る費用であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成26年1月1日 至 平成26年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	映像事業	ライフ・ デザイン事業	不動産事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	12,518,118	5,088,311	5,463,465	23,069,895	638,403	23,708,299	—	23,708,299
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	23,750	23,750	676,280	700,030	△700,030	—
計	12,518,118	5,088,311	5,487,215	23,093,645	1,314,684	24,408,330	△700,030	23,708,299
セグメント利益又は 損失(△)	880,152	△94,816	948,653	1,733,989	72,398	1,806,387	△736,913	1,069,474

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ビル管理事業、アミューズメント事業を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△736,913千円には、セグメント間取引消去△1,347千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△735,566千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の一般管理部門に係る費用であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社は平成26年5月13日付の組織変更に伴い、第2四半期連結会計期間より報告セグメントを、従来の「映像事業」「スポーツ・レジャー事業」「不動産事業」から「映像事業」「ライフ・デザイン事業」「不動産事業」へ変更しております。「ライフ・デザイン事業」は従来の「スポーツ・レジャー事業」に「不動産事業」に含んでおりましたホテル事業と「その他」に含んでおりましたランキン事業を移管したものであります。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の区分方法に基づき作成しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。